

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0874100555
法人名	鋼製特品株式会社
事業所名	グループホーム「ひまわり」
所在地	茨城県筑西市吉田611 (電話) 0296-52-3309

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	平成20年10月15日

## 【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	5.3 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,350 円			

## (4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	16 名	男性	8 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.2 歳	最低	60 歳	最高	90 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人 杏仁会 大圃病院 ・医療法人 清風会 豊和麗病院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境豊かな住宅街に立地されている。職員専用の託児所や社宅を持ち、職員にとって働きやすい環境を整えている。そのため、離職が少なく、利用者にとっては家族のような馴染みな関係を築いていけるホームであると思われた。学童保育なども行われているため、利用者にとっては、刺激のある生活が送られている。地域へのかかわりと、利用者の関係作りに工夫をしながら、両者を維持していこうという管理者の意気込みを感じた。職員の方々は、利用者から笑顔をいただき、活力にしている。共に支えあっている関係が築けていると感じた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は、家族等の意見の反映と食事を楽しむことのできる支援についての改善点が指摘された。職員に伝達され、改善に向けて話し合いがもたれ、出来るところから努力されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、職員と話し合いを行い、ケアマネジャーがまとめた。話し合うことでケアの向上に反映されるように取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営会議は2ヶ月に1回開催されている。市の職員からの意見やアドバイス、ご近所からの意見、家族からの意見など、会議を通して話し合い、業務改善に取り入れている。職員にも会議内容は伝わっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年1回の無記名によるアンケートを実施し家族からの意見を取り入れるようにしている。意見、苦情があったときは、職員全員で話し合いを持ち、解決するよう心がけている。家族に対しては、回答を提示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域とのつながりを、大切にしている。地域の行事に参加したり、ホームの行事に参加していただいたり、「ひまわり通信」を回覧したり、地域に根づくように工夫されている。また、地域の子どもたちが、自由に入出入りできるようになっている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々とのかかわりをたくさん持ち、まごころで信頼され笑顔で喜ばれる施設をめざした理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが理念の実現化にむけ、常に話し合いをしている。疑問や意見があれば、具体的な支援について統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々とかかわりをたくさん持とうと考え、広報紙の配布やボランティアの呼びかけ、行事の参加等に積極的に取り組んでいる。施設の託児所の子どもたちと行事に参加し、利用者と共に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を基に職員と話し合っ、今回は管理者がまとめた。改善点は、改善シートにまとめ結果を記載している。出来るところから、改善に取り組めるよう努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、職員、行政、利用者、家族代表、地域代表等が同席し開催している。職員には、出席した職員から各棟へ報告、全員が理解できるようにしている。		

茨城県 グループホーム「ひまわり」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の教育課と相談しながら、小学校、幼稚園の運動会に参加している。子どもたちに遊びに来てもらい、紙で作成したお金で、お店屋さんをしている。介護実習の場として提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	アンケートを年1回実施し、家族の意見を聞くようになっている。意見は、職員に開示している。広報紙の郵送や、面会時の報告など、状況に応じて報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	無記名のアンケートの内容については、家族によって対応の仕方が違うため反応を見ながら行っている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニット間、小規模多機能への移動はあるが、時々顔をだしているので混乱はしていない。託児所、社宅を設け、職員の働きやすい環境を整えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	1年間の研修内容を計画し、勉強会を開催している。外部研修については、出来る限り参加を勧めている。参加後は、研修報告を行っている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他のグループホームと一緒に救急救命の講習を受けている。市を通して、他のグループホームの見学をしたりしている。		職員、利用者との交流する機会を持つことで、質の向上を目指していけることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居宅介護、デイサービスの利用者がグループホームへの交流を深めている。体験入所は2泊3日の利用は可能である。見学はいつでも出来るようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作物の作り方、料理の味付け等、個々の得意分野を教えてもらっている。利用者が優しい言葉をかけてくれることで、頑張れることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事に関する思いが多く、反映するようにしているが、できない時には、話をして理解をいただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員同士のミーティング、ケアマネジャーを通しての意見から話し合い、介護計画を作成している。家族に対しては、計画の同意をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を設定し、モニタリング、評価を行い見直している。状況変化時は現状に応じた介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居宅支援、デイサービスの機能を活用し個々の満足度を高めるよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日に往診していただいている。24時間、医師の指示受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ、看取りについては、考えていない。家族の希望があれば、職員、医師等、話し合いを行っていききたい。重度化指針については家族から、同意書をいただいている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報紙の写真についての同意はとっていないが、口頭で家族より同意をいただいている。職員は、利用者一人ひとりに、プライバシーを損なわない言葉掛けをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースにあわせた生活パターンの支援をしている。また、趣味を把握し、少しずつ時間を作り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストに応えるように支援している。配膳・下膳・食器拭き等、利用者の出来ることを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中、1日おきの入浴であるが、希望があれば、毎日入浴可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や食事会、畑仕事、洗濯、掃除等、日々の生活の中で出来ることをしていただき、出来ないところなど支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	病院受診の帰りに、買い物や公園など、希望に沿って出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、センサーは設置されている。日中は、玄関の鍵はかかっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施している。災害時の備蓄に関しては暖めるだけのセットと米、炭がある。	○	災害に対する意識を職員全体が共有し、意識向上に努めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に水分量、摂取量を記入し、利用者の状態にあわせて、支援している。医療データは家族に手渡されているが、ホームに対しては、医師から指導を受けているため、指導にあった支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、ゆったりとして、おのおのが思い思いの生活を過ごしている。リハビリをかねた折り紙の作品が飾っており、利用者の励みになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、馴染みの物品が持ち込まれ、居心地のよい環境に配慮されている。		